

「釉薬の二重掛けによる美しい模様作り」

コース・専攻：総合芸術コース、美術・工芸専攻

グループ名 Team 釉々

メンバー 山形裕士、斉藤富美子、岡本雅博、西川香代子、松本敏弘、毛利恵己子

趣旨・目的：

結晶斑模様を中心に釉薬の二重掛けによる美しい模様作りを探究した。はじめにグループ内で釉薬に関する学習を深めた後、種々のテストピースを作成し、結晶斑模様を中心に様々な美しい模様を作り出す二重掛け釉薬の組み合わせを調べた。さらに、テストピースで確認した、二重掛けによる美しい模様をもつ食器や花器などの陶芸作品を各メンバーが自由に作陶した。

方法：

カレッジの授業で普段使用している釉薬を用い、絵付けや化粧などの装飾による模様ではなく二重掛けだけでできる模様限定して調べた。粘土も赤土と白土に限定した。たたら板、小皿、筒の3種類の多くのテストピースを作成し、施釉時間による変化や流れ、垂れ等も含めて、美しい模様を作り出す釉薬二重掛けの組み合わせを調べた。

結果：

- ① 24種類の二重掛けの組み合わせの中から、顕著な結晶斑模様や美しい模様を作り出す組み合わせを10種類選定した(写真参照)。また、それらの二重掛けを用いた個人作品を多数作陶した。
- ② 白萩と黒天目、蕎麦と黒天目の二重掛けでは白萩や蕎麦を後掛けした方が結晶斑模様は顕著だった。
- ③ 特に、白萩と蕎麦の施釉順序が異なると色模様がまったく異なり、後掛け釉が支配的だった。
- ④ 筒型テストピースでは流れや垂れによる美しい模様の二重掛けが見られた。
- ⑤ 施釉時間(1~3秒)や粘土を変えても、模様に変化は認められなかった。
- ⑥ 廃釉薬の有効利用を兼ね、廃釉を用いて「Team 釉々」の銘板を作成した。
- ⑦ 二重掛けによる結晶斑模様の生成には、冷却過程における徐冷、結晶の種(核形成剤)となる酸化鉄、結晶成長環境を作る乳濁成分などが関与していることなどを考察した。
- ⑧ 釉薬に関する学習を深めると共にメンバーの懇親を目的にフィールドワークを数回実施した。(写真)

釉薬の二重掛けによる結晶斑模様



丹波立杭登り窯 (2025.6.1)